

告祭文

七

7 6 5 4 3 2 1 0 60 70 80 90 100

五



ひりえ

力

上

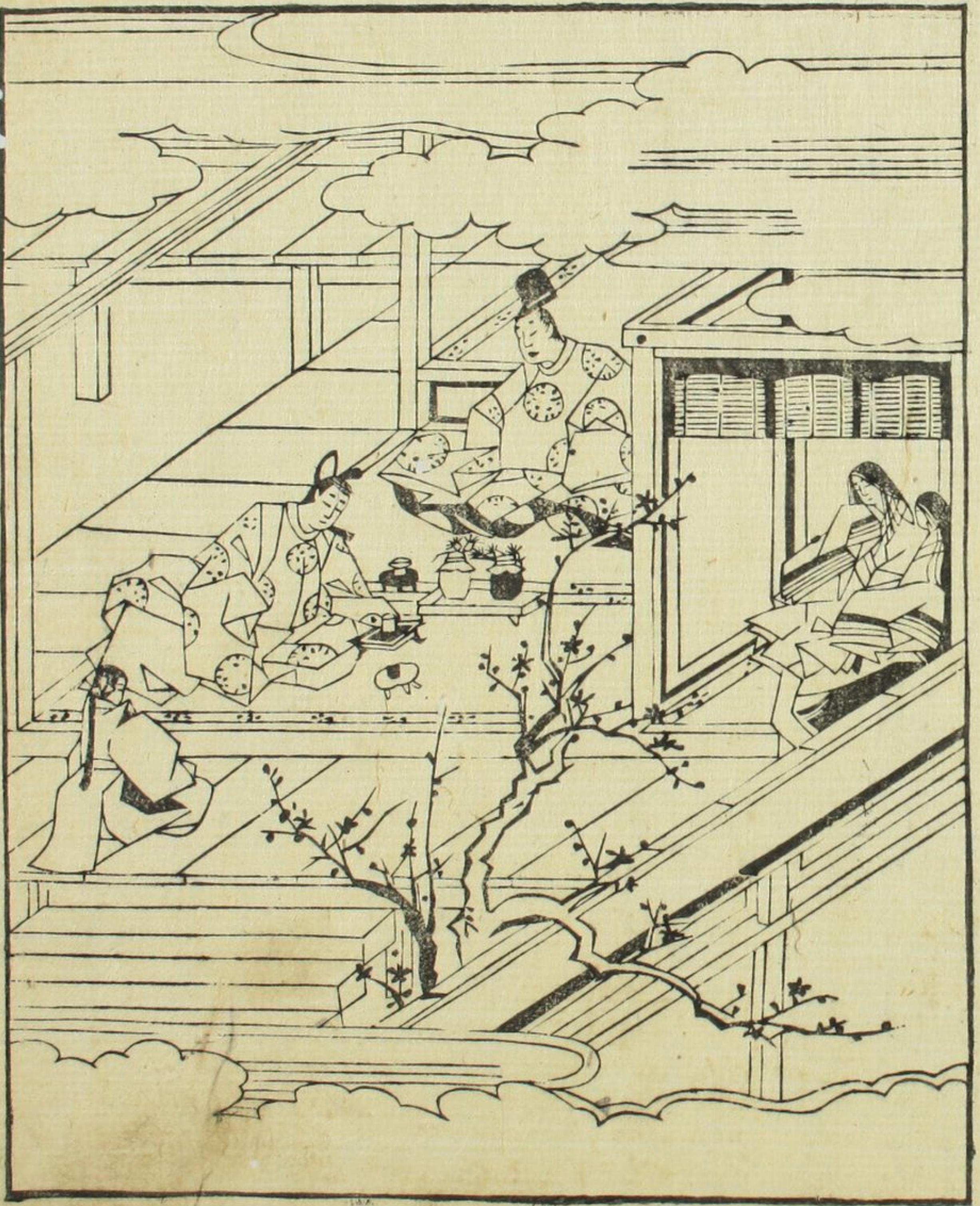
同下

梅ノ枝

木の音

心絶

ゆゑの歌も土アレとよばれの萬葉の卷之卷  
乃に子冷泉院に有子すとカヨテ二月より  
うつろあはれりまく入内もすくへまくや  
ニヨリのひきわづきを緩錦とぞうおほて古  
院のいはこまくらありけりやひんさくと高  
く山高アカテアヒハシビツヒセキを  
経てまくらひ草のうるるへかくへよがく  
あまの二三日かくわくとせぬ内ゆかよが  
きうすのとくちかくのときじかくと三三敵  
よそ敵をもぐて黒方の唐金をうけまのと



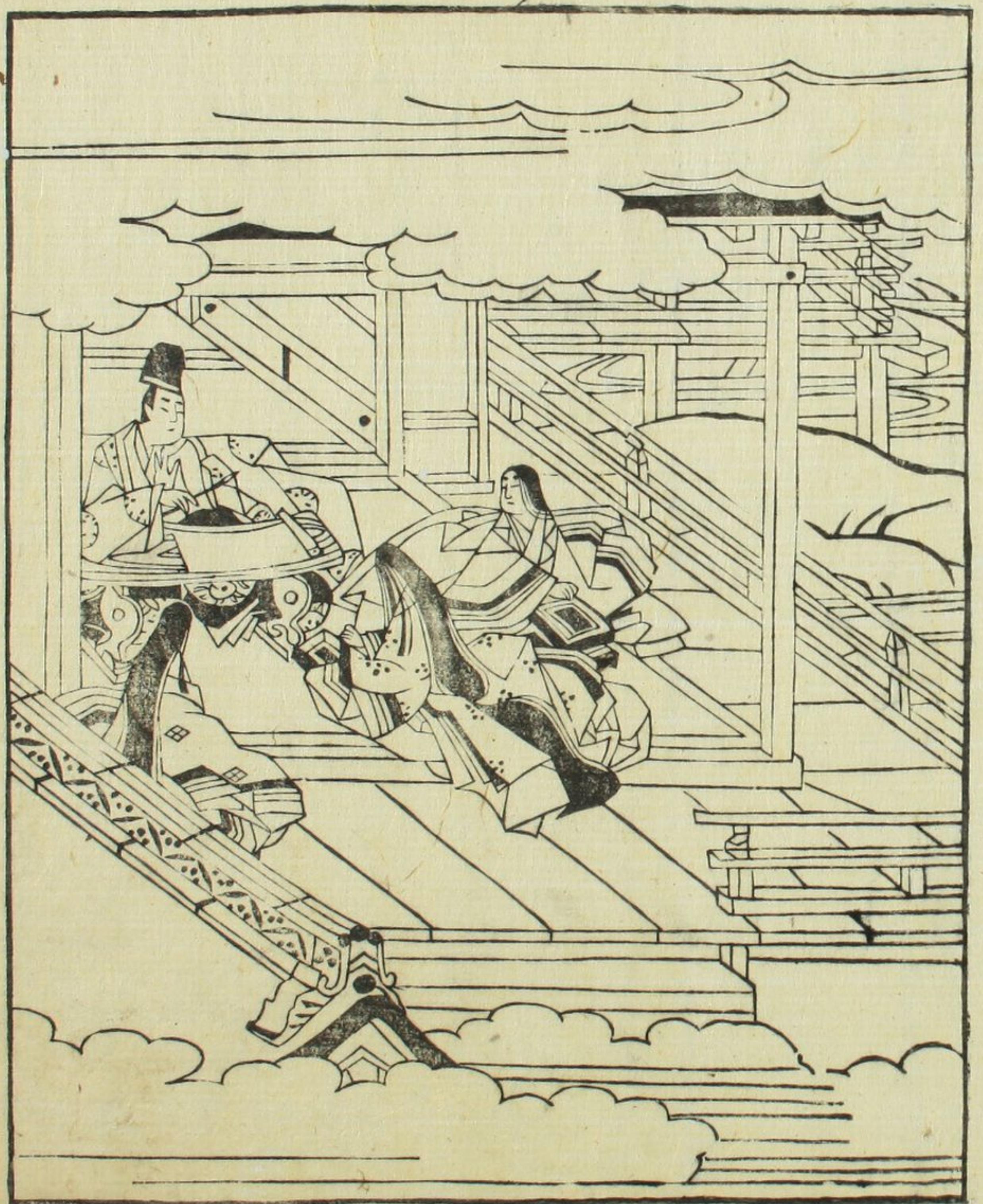
你  
花九林子  
也  
是  
山  
水

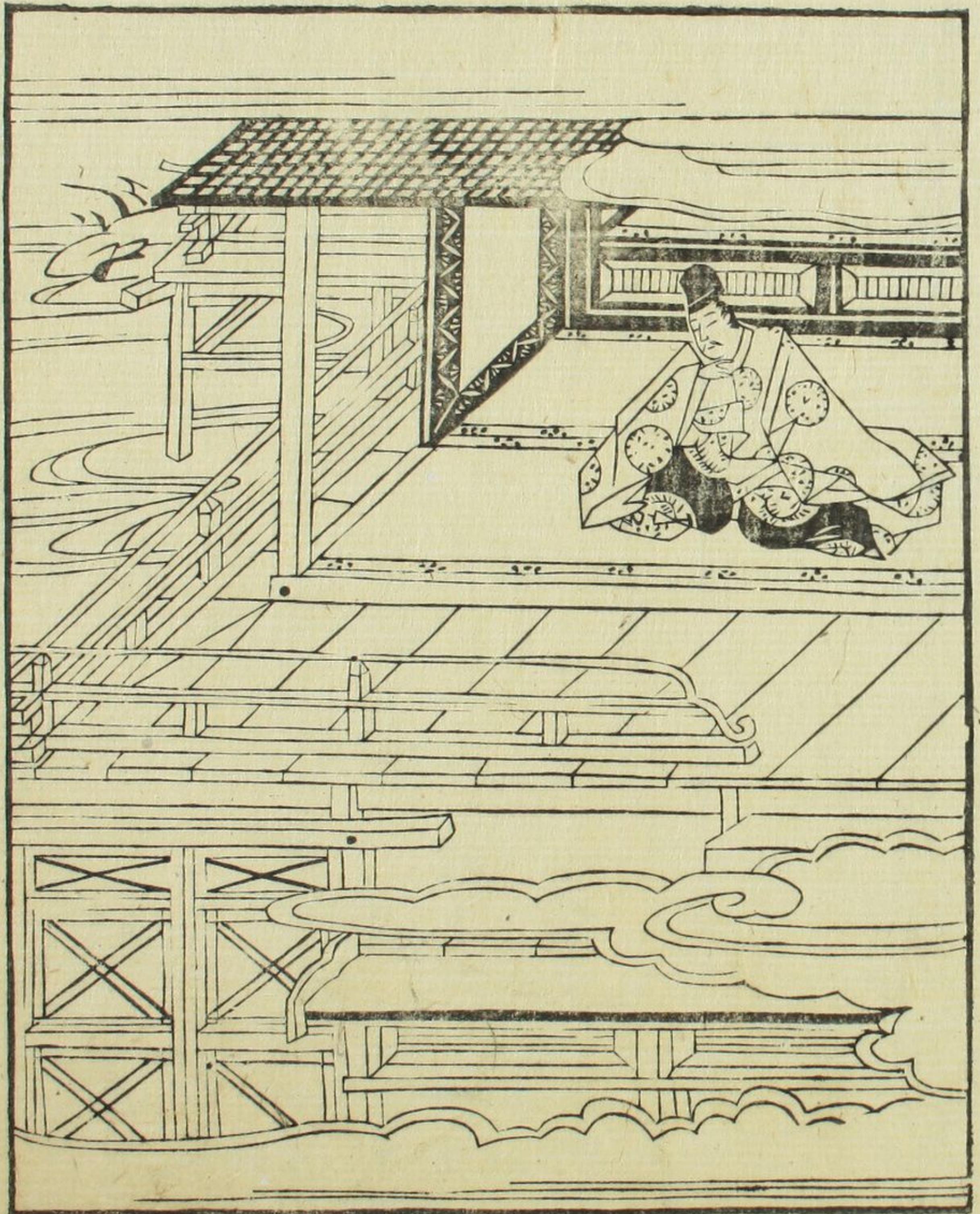
人乃之其事也

考へまゝにあわの判をも思ひ云ふと、お世のほ  
りみすかひのやうが、よが、うてあるのをみ  
のトトトあらえきそらづきをたまつて  
惟えのす葉東のそめりてあつた事相  
うてはくまくまくまくまくまくまくまく  
あまやうきよくやとすやとすやとす  
うちが、源の内、むのうのうのうのうのうのう  
れんれんれんれんれんれんれんれん  
れんれんれんれんれんれんれんれん  
れんれんれんれんれんれんれんれん



てんよみうれりてうつゆのゆうごくの  
まだゆとやでとくらかきゆうせんや房  
えんじうすゆうせんりくめぐる  
一キをききのえりくとて思ひづくま  
さまめくまくまくまくまくまくまく  
わくわくわくわくわくわくわくわく  
さくわくわくわくわくわくわくわく  
あくわくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわくわく





内の事はおひでにあつてあらず  
外の事はうちゆゑにあらずとぞとはまの  
人乃翁もうけりきみよなすへきうすを  
わたりとタキモのくちもせりて御  
事もくらまうてはりしゆじと城もう  
さとをもとほりてはりと夕景  
アキのこりゆのほのよなうゆを  
ヨリシナヒヤムアリあひ  
アキシテカツルムシロトスミ  
シヤセノトナヒアラシクシム

蝶石

首裏葉 鳴丸ノ 箱

御子ノ本大主の間日とて身の内へ詔書の  
極あまほりて御もと寧相のやうす事  
多うほどがやうかといひ多虎ノセモ御方  
とびがくびつともちやへかくすりふらば  
せられて御もとをづる御を御心より  
おもくすきゆうかのせり、さうのほえ  
きにづねおがいとほくゆうへども御うど  
きせよ思のうそむくとく御すけめども  
てゆうゆうはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはく

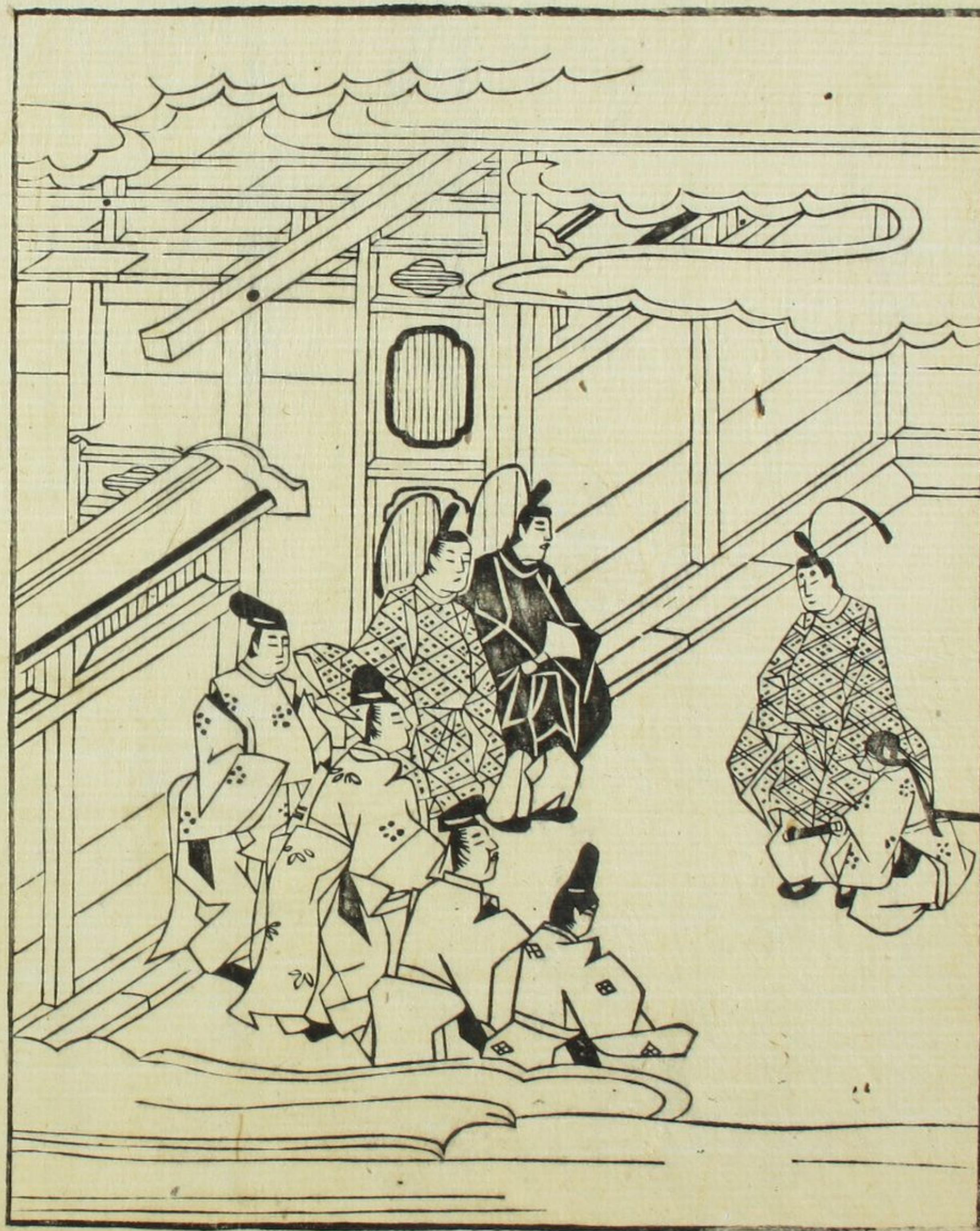
タニヘヒセテシマウノ内古

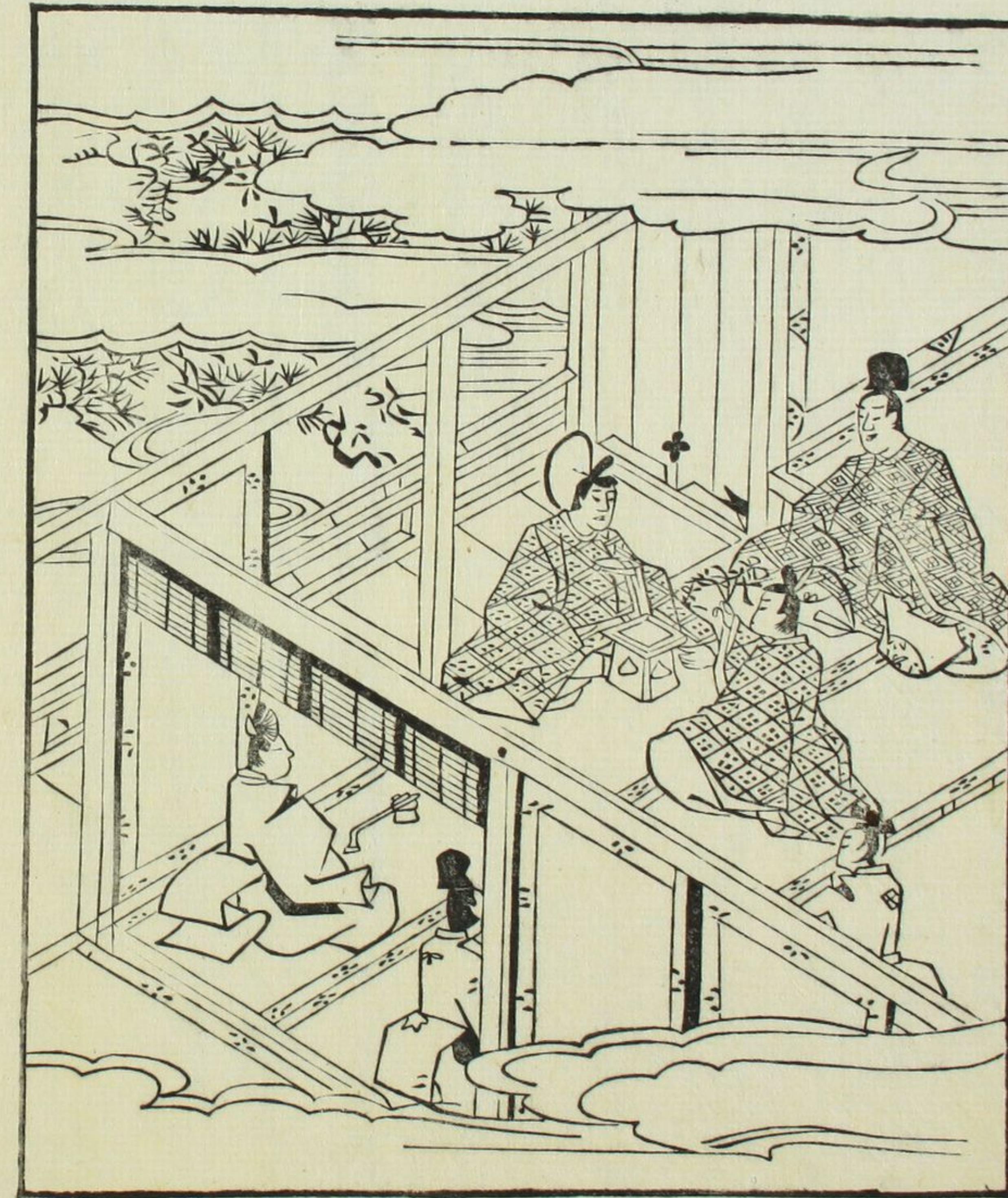
わやのすのまにきたそと

名中  
中

タニヘヒセテシマウノ内古  
わやのすのまにきたそと  
タニヘヒセテシマウノ内古  
わやのすのまにきたそと

内の事へまづうひあはせむれ  
毛乃きよてアシテおびまつりとくらべや  
あくまかくは又がにちぬうらえのまも  
もすくふくふくふくふくふくふく  
まのれみすすくすくすくすく  
ゆれひあひりひりひりひりひり  
ほりんわふよわわわわわわわ  
ゆりふる下とてりふりりりり  
ひあひひひひひひひ  
あひひひひひひ  
ひひひひひひ





望す蒙古の國をもよおすの事あつた  
りのとき、とひの里へゆくが、  
ともうてせらうと魚つるをさる方  
あまくとあはれの川へ  
りきり、せまのめ  
タリキあひをきたちのやまの川  
ありののへりて、ありせん  
やうき、ありて、  
おもむくが、おもむくわきつる  
おもむくが、おもむくわきつる、あはれ  
タラもむくよきのよきつるて、まくわ

左  
ぢよめよひやうかりゆりもくをいふ  
あいきとくともおたと天てすぎぬに住え  
まてみらうせりの里へおほくに夕方半  
仰ひこゑおはるのとく住すとひよやきし  
事ありし事りかゆきとくとくのくわくとく  
もとて中間

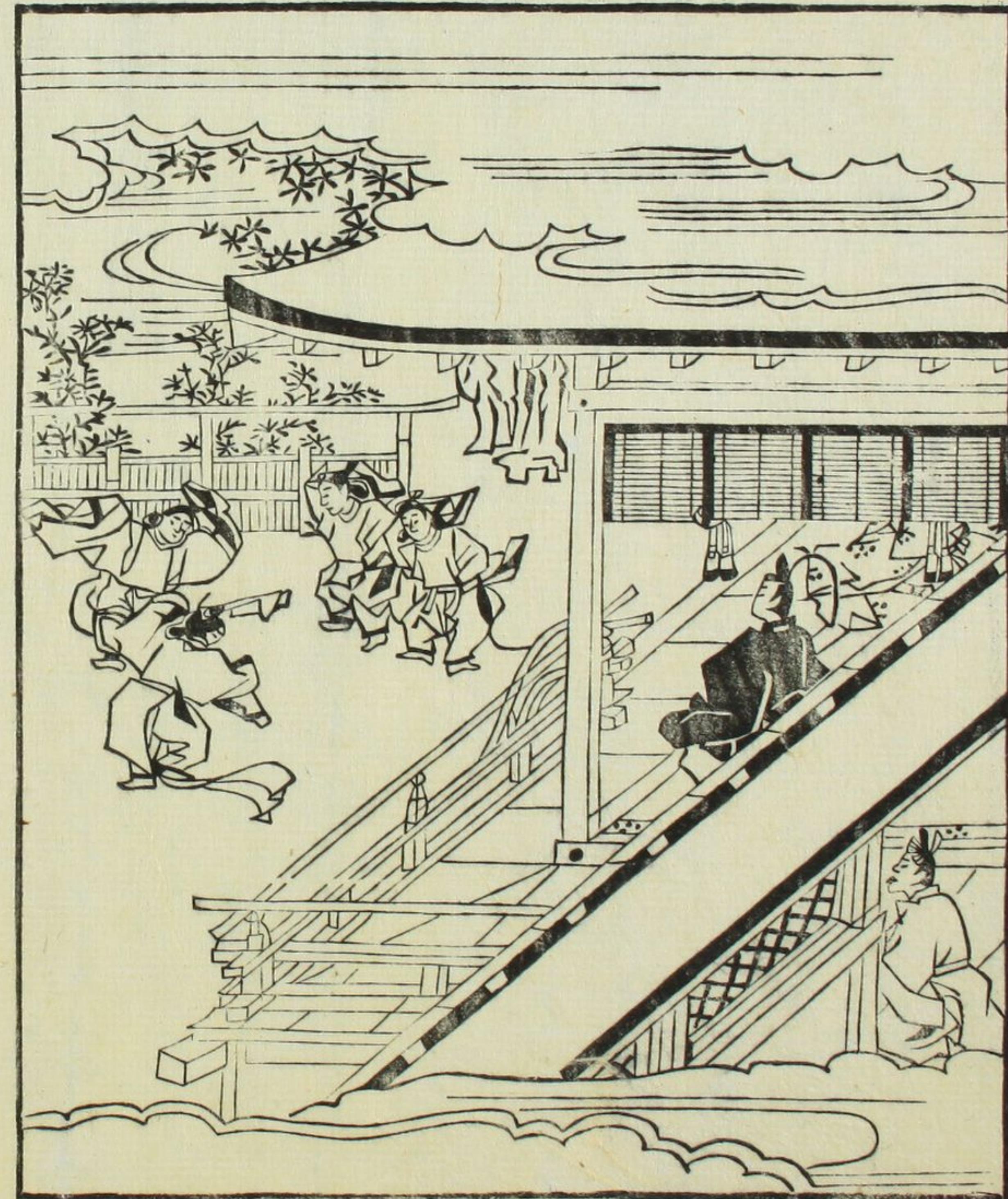
あくまうやのきくはる  
こきりく乃そく  
き二萬のくわく  
あくまきつら  
ウラハガニテ  
アラタニテ  
ウラハガニテ  
アラタニテ

タカヒコはすまへてわくわくうちの間  
あさりとさげとさげとさる者ありてあらは  
男はぬきにすまのとく者  
あさりとさる者ありてあらは  
ゆゑかへしや高のまゝ  
あさりとさる者ありて  
をもんのかげりてみつまつて  
うわくやとまのうせ牛乃も  
又かへゆうゆうてまてあまのやがく  
もかへゆうゆうてまてあまのやがく  
もかへゆうゆうてまてあまのやがく  
もかへゆうゆうてまてあまのやがく

やのくよめのハレアラム  
トトおねむうけりのとき  
タク  
うきよめしりてそばのじよも  
ねこ一かきらね乃も  
牛乃もあまうよあらは冷りまわ  
ああけあらびて牛乃もふもしまづの敵  
ふもしまづの鳥ひききてめのせらは  
あらびきとひでくわほよあらのうど  
あきだとうひきあらはからりと  
乃かへのきのうれいとあらを

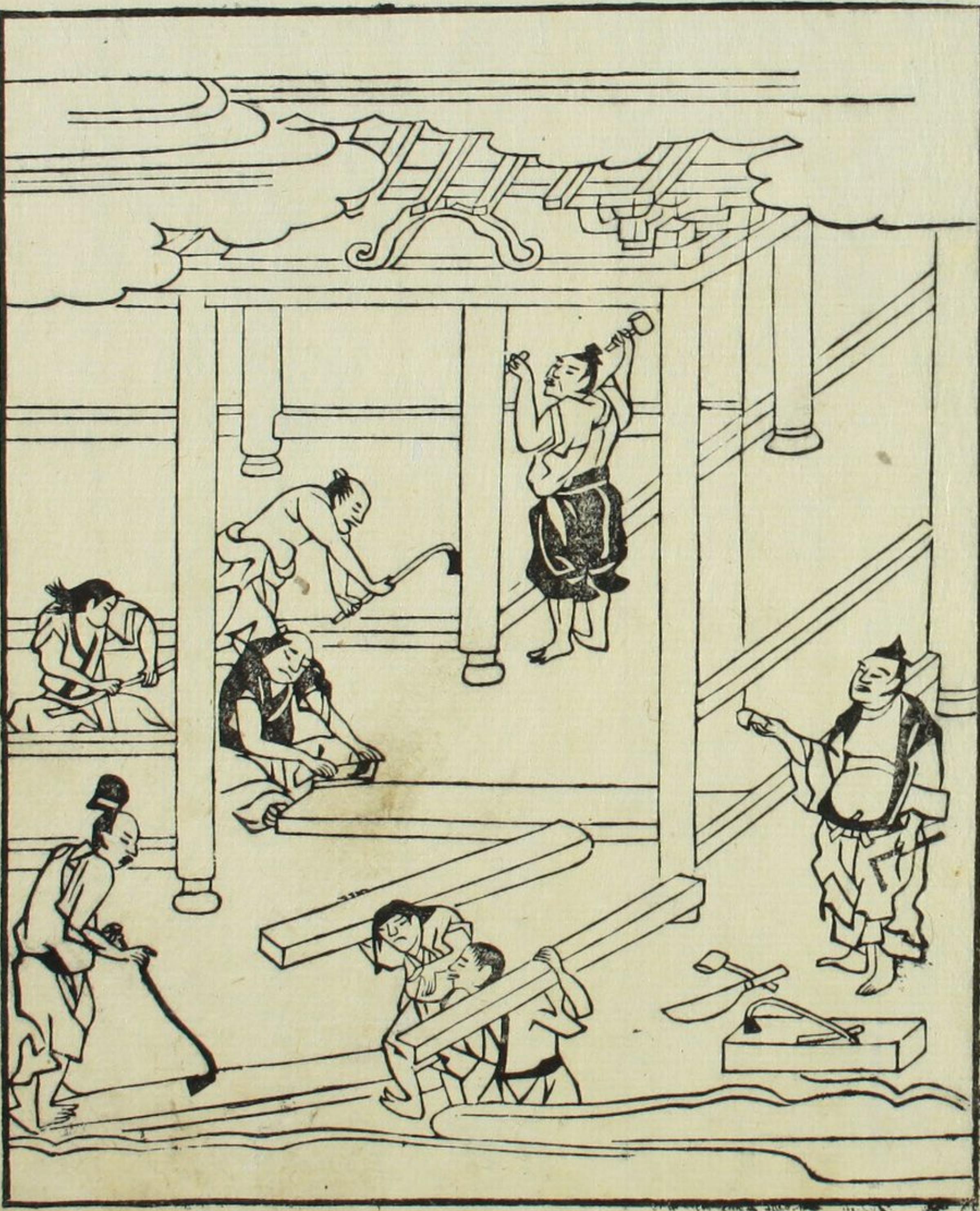
行すらむきすまほへひのあまつと  
さうじゆのむれはんしゆとすらふの  
かべとぐー中」とひきてひをせとせ  
たすりもひてわへはくとくめうと宣  
うへてあゆきよばのあとたのねう  
ゆ人の度い小ちくがつまう馬  
へりをのひうびてもんぐるの  
うかれておなじのうづまくまくお  
うがおうせうめでてりておのう  
まうまくほよかのうづまくまく  
駕と恩をうするおひきかくわく十

うううううううみとせせせが  
うそよそよそよそよそよそよそ  
えまえまえまえのうめうめ  
地うううかううおとと  
大森下む  
みうううううううううう  
かうううううううううう  
えうううううううううう  
うううううううううううう  
てあううううううううううう



おきてけぬすりめりと  
かりりてしゆくもと  
よりぬりとくやみりと  
あひひりあひのうと  
たまきあひむくと

お葉上 雪の下すと  
ま庭院ありてのまのなむとくやまセ  
行ひひじへあひがくと年もあらむのりがの  
とくよむむむむむむむむむ



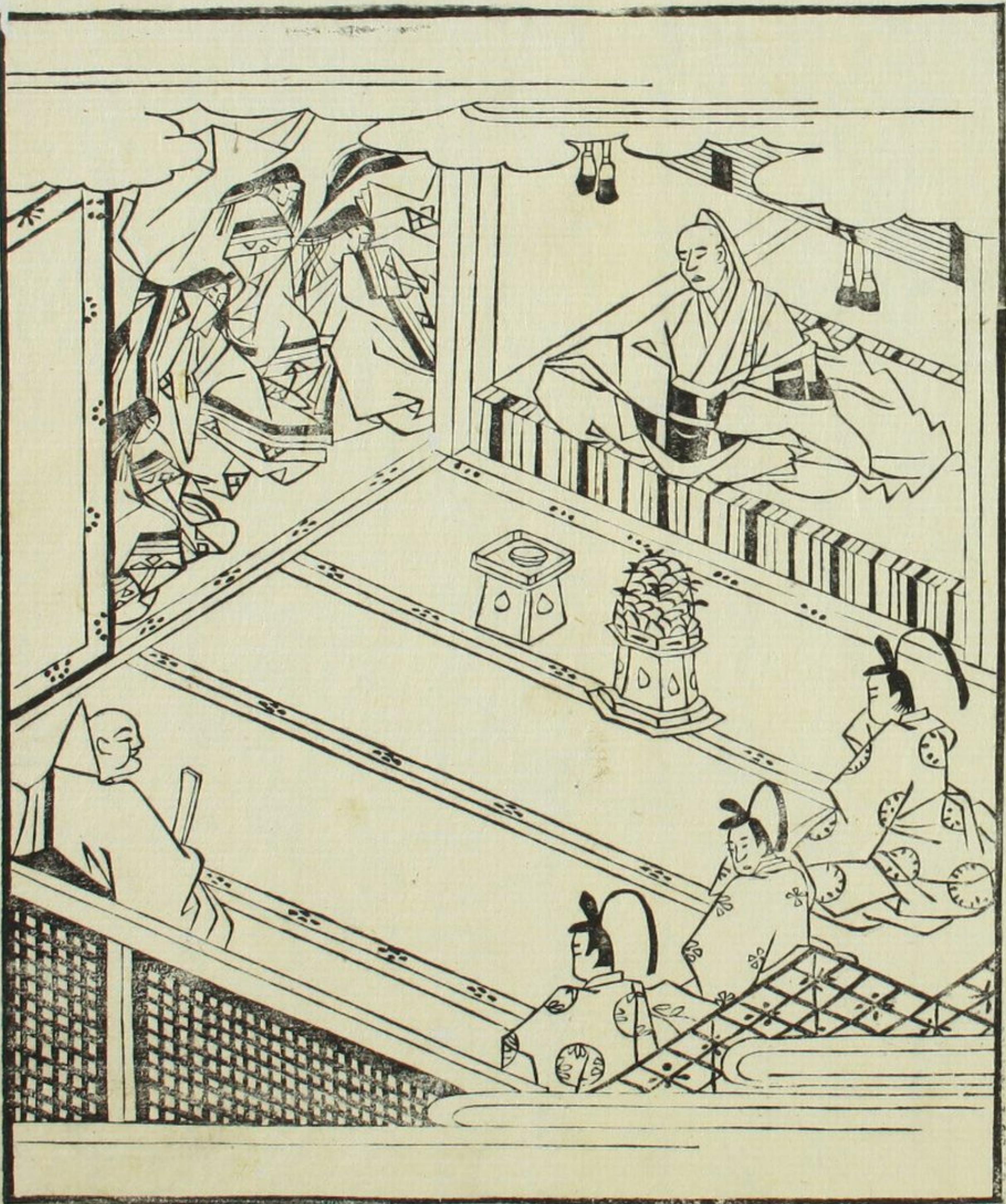
今やにうてのふうひまつてもまも  
ゆゑまめ敵わせぬとせよりん  
ゆくにまもひまくよりくめ  
まくセシハモル中御タニミの事カトアラ  
キムヒダクサシタれの事カトアラ  
ヘキタヤムかとサシタれの事カトアラ  
内ナカニにキタリテの事カトアラ  
モカウセキアマヒシタリヤトキモ  
キムアキドアリハキシタムアラ  
のほえはアシタシタシタシタシタシ  
タシタシタシタシタシタシタシタシ

うん女のまゝともうの重あつてかまへよ  
あとのもひめをやまう事あるのとを  
うきさうかゆくあんきの物事  
くわく年ねてもひびすかうひ  
う鶴ゆづきせやく事あ  
きはうのゆめりそ  
うたうきれまく  
うひくせん中せふ  
うきまきゆかう  
うきまきゆかう

わが身やむかへる事のあつたまことに  
是であるからうつすにありとほんのくまの  
やうの年よはづくよつて御くる口おこすと  
あるてうらへあがりうらふかの事のうく  
まのきへはなきとくさるてうくゆくめにみ  
てまくあんておうてえねむとおのす  
あくとおれのゆけとおとせのゆかせだ  
たとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

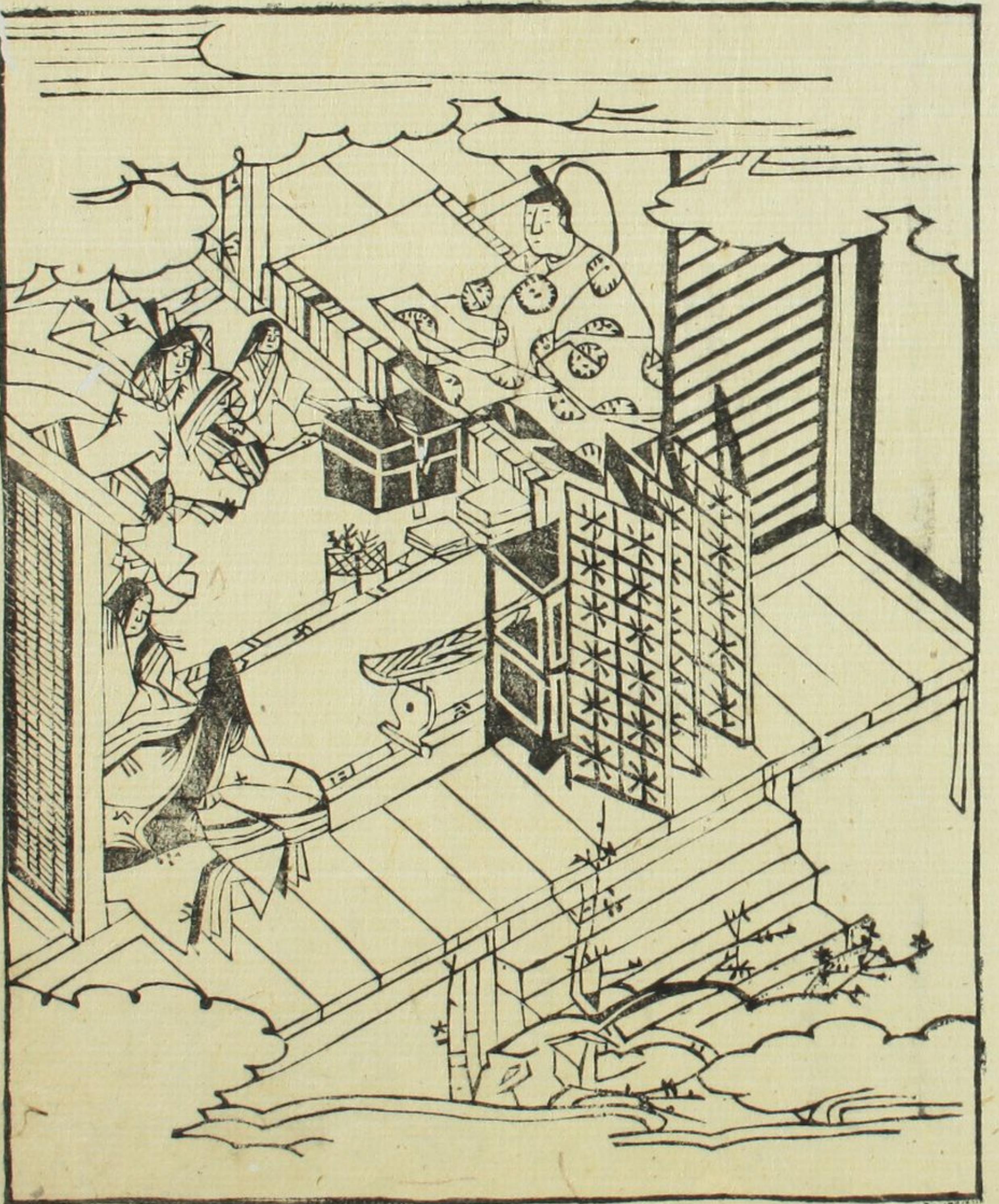
よひゆうやどこちゆく年よきわせ三の月がさ  
の事のうちのあおれてよし時ハシメのうす  
の音のうおがやうてやうてやうてやうてやうて  
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
みくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

院に處へうりあひありあらむ  
うづきのやうめふうとうりよを  
けりかきとあるまくまくまく  
ひじゆき三たきてつるよびうもく  
あらゆのゆのんのゑへ所へてか  
うむ行つまきねぐわあつらむそく心  
もくねくのすまえりし事れあがり三人り  
がくかくさくせまくらあま衣がくくせ  
生むゆきりうりうりうり



六條院を參詣してひまわりをうつすと仰  
といふておれをうやうるにあつたとさう  
の事は、かくとおもつておもつておもつて  
院はひめ御玉ひめ御事ひ院とぞも  
きくすゞがおもてあつておもておもて  
ありもとほんの間をまどほしてあ  
ざくわきひゆうじてつ  
あきすせやゆくとくわきがのえ  
わきく身のぬすすりおきやむけお  
よ入るをねあづかひゆうてせきをく  
院の草木へせんみのひぐんくらむと音

かくうて身をすてゆく院へゆのまじ  
はくくうてかくすくわきりく  
ひまのひやすくわくうくわくわく  
乃の葉と山の鳥とく院のたのび  
めくめくめくとえいきとめく  
人のうみんべつすくはうひだんほのく  
よくあくらうくわくわくのくらうく  
車のくらうくわくわくのくらうく  
すこいとまへくゆきわよりと年もく  
朱雀門の御え六條院ひくうひむく





所に處し候事よりトテモ、心もとなく書

したこあるは女三へ更づる事無

かすとぞうつて候へたけり

わざうすきアヒテ、其と紫(シモ)セ也

女三の事もまづうなれ

もくらひてうみをひきかへま

れ、ナタ、よきのわへる

せうひやうが、ゆうわくもくらひて

てゆ思(おも)ひまひせのうちうてじうふ

角(くず)院(いん)のすと二月一(いち)  
月(つき)の辰(とね)

うのあすと、さうのとく院(いん)よりせんに

もくらひて、ひせよのうとく院(いん)

ひそくとく院(いん)のうとく院(いん)

ひそくとく院(いん)のうとく院(いん)

女(め)文(ふみ)もうとく院(いん)のうとく院(いん)

うんぢうとく院(いん)のうとく院(いん)のうとく院(いん)

院(いん)のうとく院(いん)のうとく院(いん)のうとく院(いん)

せんとく院(いん)のうとく院(いん)のうとく院(いん)

うとく院(いん)のうとく院(いん)のうとく院(いん)

赤道

モリモリ

年月日がたててゐるやうな

朝のなまこはせきをあわせに落すと

ゆきやうつらひもあくまで

夕の朝霜とあうて草の花とがせて

三河のむかしのふらうすま

がむかげりへきびのあると

冬の分、いんづくとまつゆのよと

さかや行はすのよと

あひだらの歌をうたひ

さうのあはれをあひてうたひ

ナミとゆめのひとへ落よしが入りますま

カとゆめをともみのひねまくらむ

つるいせみたすくわに重あらうかが

らのと源井をうたひたのとひのう

めうらくせやまくらす

あくまゆをうらうのう

萩のまゆをうらうのう

明石の娘君はまくらゆたのとじま

いたのとまくらゆたのとじま

モリモリ

水きのうをうらうのう

萩のまゆをうらうのう

明石の娘君はまくらゆたのとじま

いたのとまくらゆたのとじま

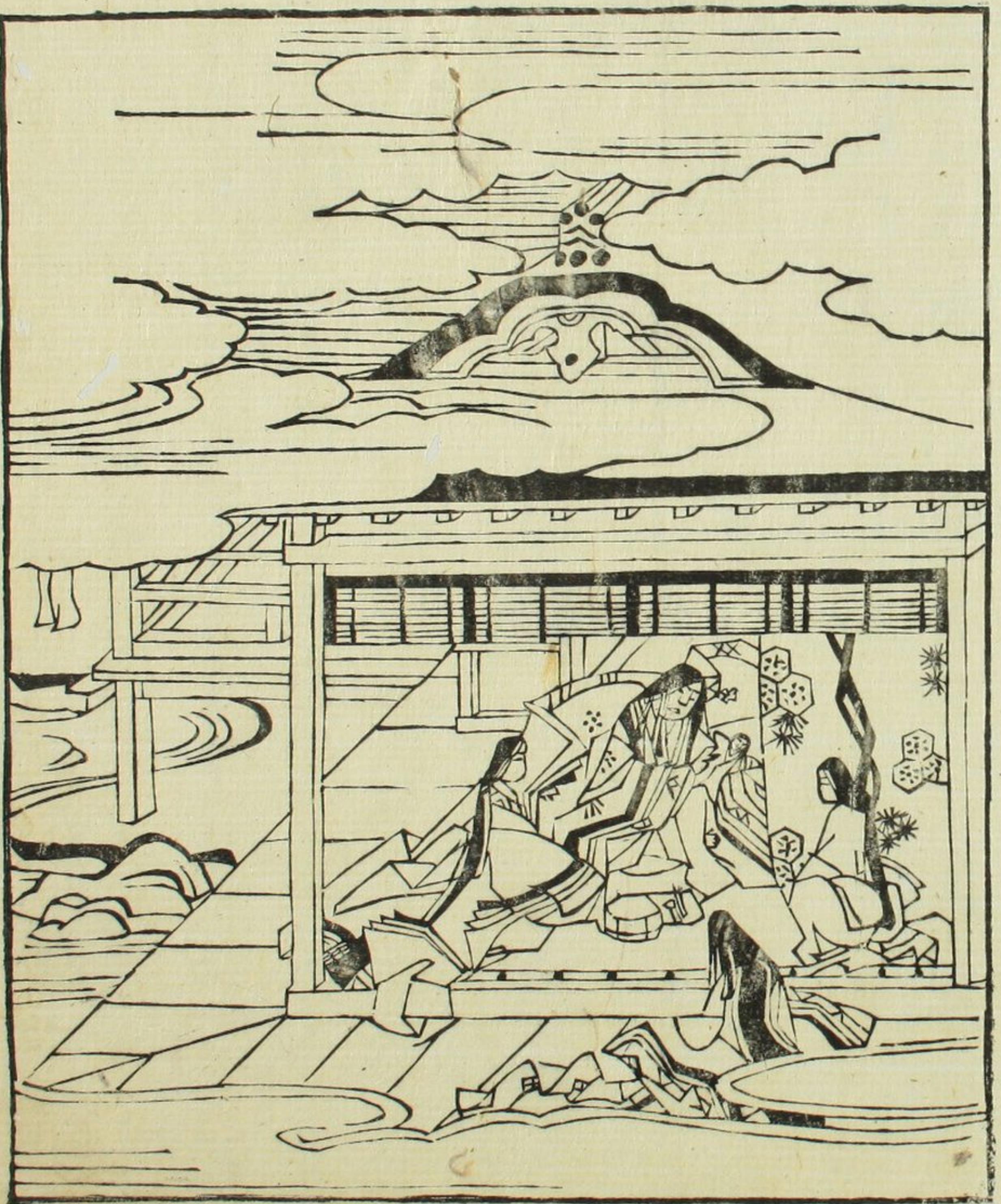
いはせ三の山とおひと山とおひと山と  
いはん中野をゆきあはるはるすはるす  
ゆかしてりまかみけきとくのひより  
まくすのゆりあはるはみゆみうなみえ乃  
七たまよれどもやう布てめらんじあひすす寺  
二きの四百ととりうてやまをゆくはる高  
左矢やうをせりてはるてめくがくす  
て山底つきねさんまく笑みをもむ  
けゆきやうと山馬平せたまきのなん  
りのうづかくはるがくうじとせゆる  
しをとびたるのゑひんせ

まくすゆきて姫君へ二月をうとうとす  
ちうてかやまくはる町のゆひやうて  
てまくすゆきりぎたのもくあまくひく  
まくすゆきよ

ゆきのゆきかひあるうよだらう  
一やくわきくわきくわきくわきく  
船ふね まくすゆきあまとくまくはくまくはく  
まくすゆきあまとくまくはくまくはく  
まくすゆきあまとくまくはくまくはく  
まくすゆきあまとくまくはくまくはく

三月のたよのゆきがくまくはくまくはく

おやうきとわくまの御所とておもてをとる  
おもせあきてひかのとほゆびのわうひひす  
アラキアシヨウの内とうひくらめ  
内事あくじふくらち居りまし  
アラキアシヨウのとあまびつてくらうおも  
とくとく



はやくのへきつてとおこなひのじゆを  
ひくまきにせかむるひじてあそ年ほに  
わざれ田はすのあはきみてしもがの郡  
よんよみとくわく年もあらそとくの上  
へとまれうそよふはふものとくひじり  
地主のせきあん年の二月とよすのうと  
ちのゆふとけとおとく月日ひくわ  
よきあてせとくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとくとく  
みうくらうとくめのうとくめのうとく  
ゆくとくんとくとくとくとくとくとく

はやくのへきつてとおこなひのじゆを  
ひくまきにせかむるひじてあそ年ほに  
わざれ田はすのあはきみてしもがの郡  
よんよみとくわく年もあらそとくの上  
へとまれうそよふはふものとくひじり  
地主のせきあん年の二月とよすのうと  
ちのゆふとけとおとく月日ひくわ

よきあてせとくとくとくとくとくとく

ひくまきにせかむるひじてあそ年ほに  
わざれ田はすのあはきみてしもがの郡  
よんよみとくわく年もあらそとくの上  
へとまれうそよふはふものとくひじり  
地主のせきあん年の二月とよすのうと  
ちのゆふとけとおとく月日ひくわ

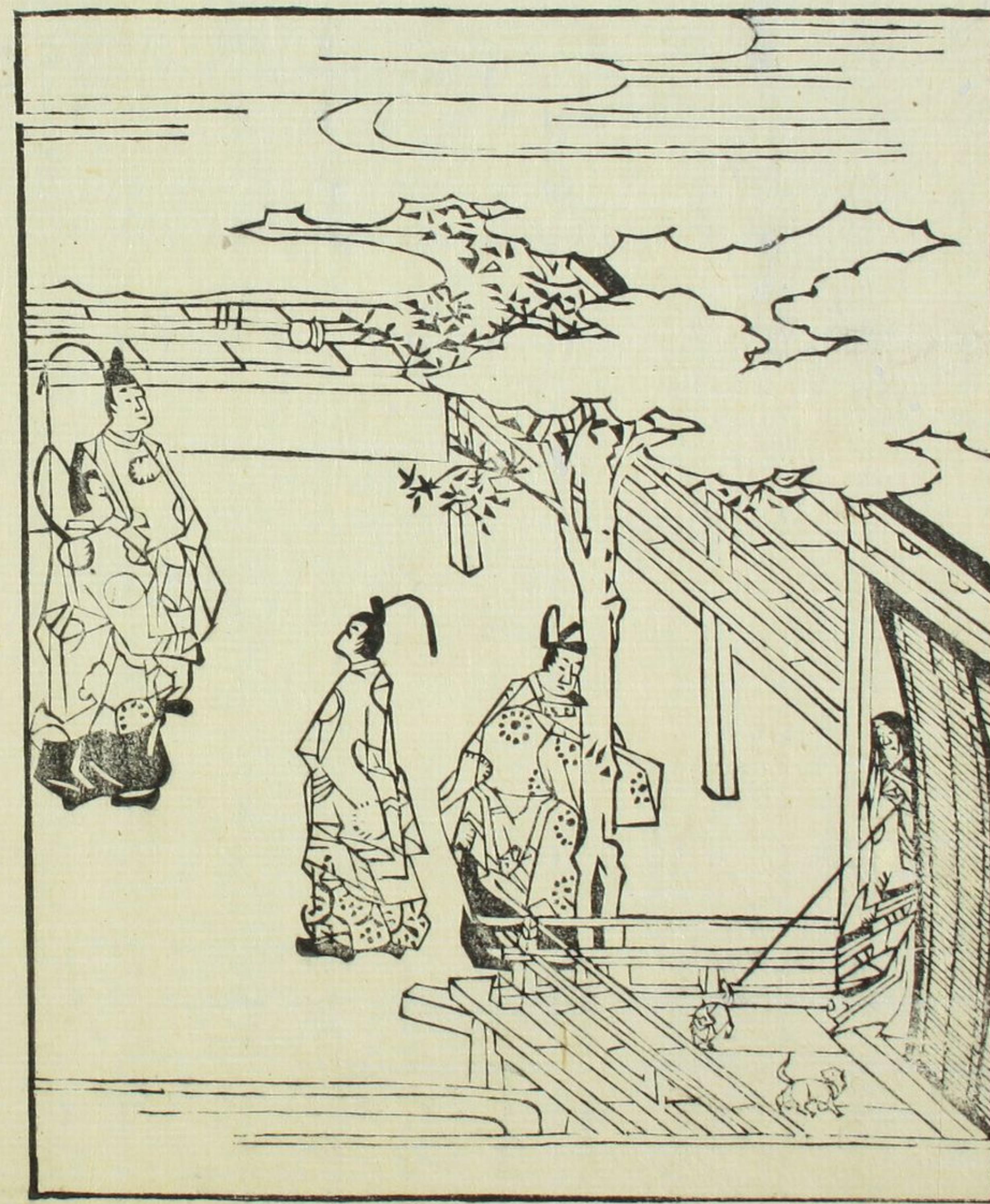
よきあてせとくとくとくとくとくとく

ひくまきにせかむるひじてあそ年ほに

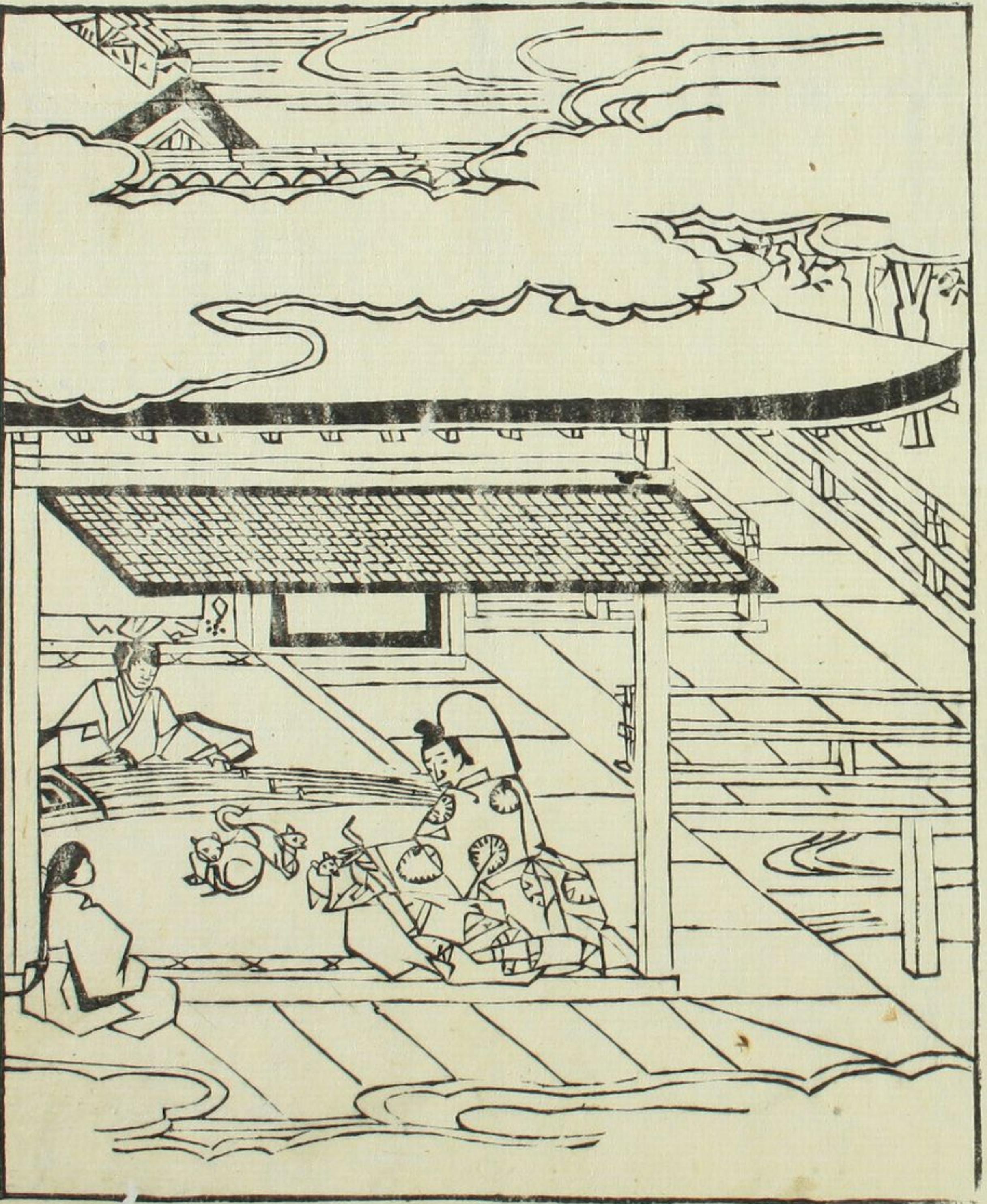
おもかとせりゆきさんわまくさすてみめ  
うんあくさんわあはち、も葉葉きてと  
うてみようて傍へり、三人ふるひよきあ  
はねといひは拂拂ききうりてはまよ總入れ  
御のめぐすみちよんへきまくすを  
ヤと流原もひえと乃也てやくとがりと拘  
鷺朱拂い流よけのとよ  
ひきぬくすすくとく、かくさくさ角角くす  
うとくわくくにれひくとくめくらう  
らひくわ竹竹くわくらあくくめくらう  
あくとたくまくと里里くまくまくはくやま



まよひき御りてあよへよのやうだ  
うそほんじゆうひすりださるもあく  
おのづこをせつめうぶくうちわの  
ゑいの車もすらのねあはれよとすま  
いきまくらがくまくらまくらまくら  
たまみゆまねうらうらうらうら  
いき、花のうりやく  
せのあじゆうばせりふおほほくにりほ  
くもむかわくわくわくわくわく



蒙古文



まよあくまよア琴才をうきうきてひが  
まよあくまよアはうてとくのれ  
うきうきうきうきうきうきうきうきうき  
りうかまよ  
まよあくまよアがまよたうせし  
かわよあくまよアがまよせし  
よくらうけうなとよとよへてあむ  
まよあはじけうのア半らかまくねのもと見  
かみのまやんあとど稀にハ見いふ  
いふのまよアがまよひがみのまよア

冷泉家にひらくて年をうてたる年をせせり  
とあらまくさやせりとあらて御すけ  
とせぬと事有らの事もまつてけぢる  
あらまくさりとがりとがりとまくとを  
とわせし算のたるお石大だよ壁の  
乃れもかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
がまゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
がまゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
山のまゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
まゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
ひとまゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
わゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ

とわせし算のたるお石大だよ壁の  
せんばくとまゆうかのまゆうかのまゆ  
かのまゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
てとゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
車のまゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
かのまゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
せんばくとまゆうかのまゆうかのまゆ  
十月中のまゆうかのまゆうかのまゆ  
乃トふまゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ  
つあとまゆうかのまゆうかのまゆうかのまゆ

三

三

卷之二

A

13

6

1

1

६

2

3  
n

5

6

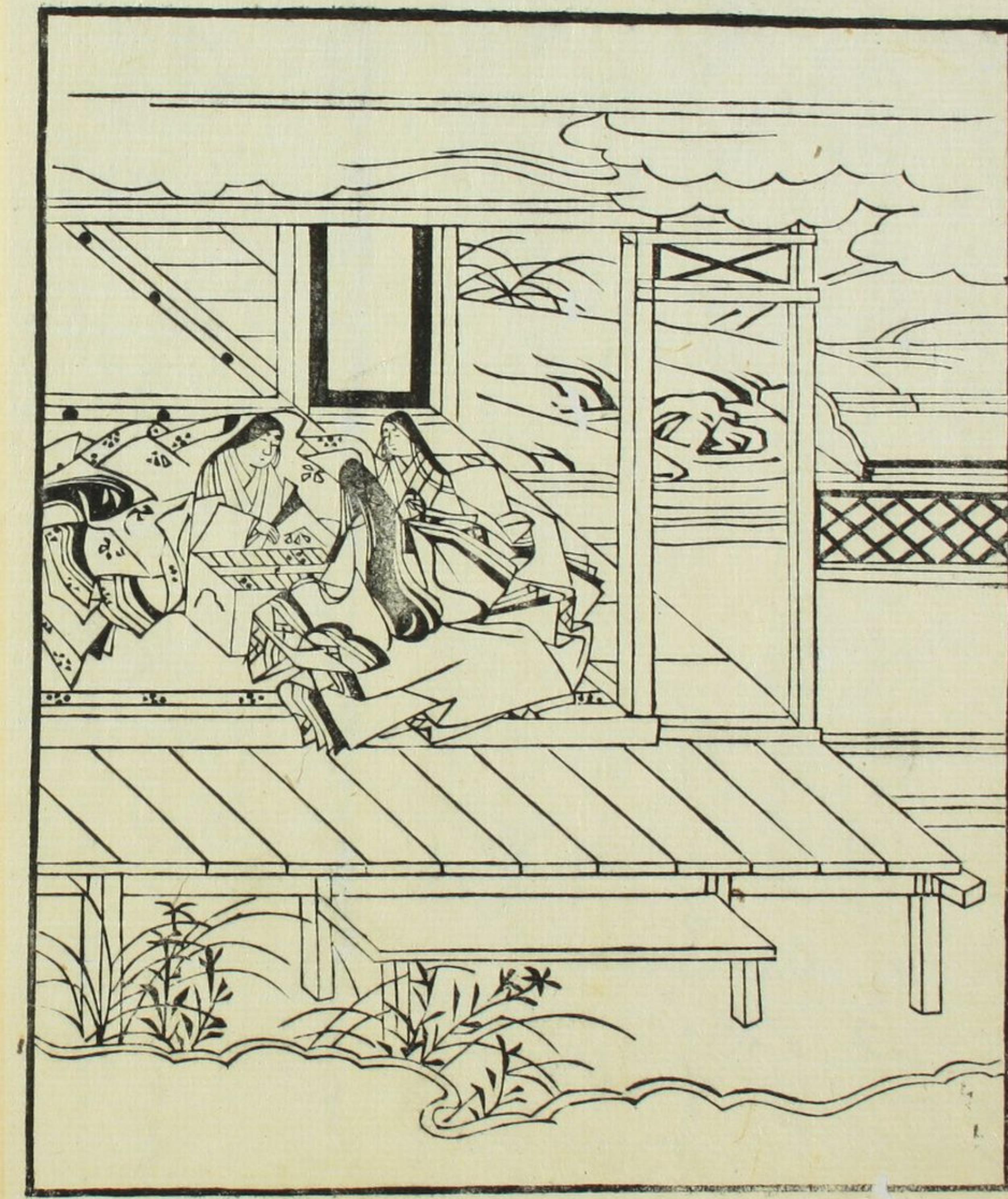
7

1

1

ゆくすりせんとくの事  
たまのまよゆくまよひをとし  
中嶋の君  
けいづらもくじの神のとくう  
うきよの清よそひ飾とゆきくとえ  
ゆうすのまよみゆきをまくわびぐんあら  
きわきつる原のゆき  
わきよびのゆきてりて山ドやまくわき  
わきよとくわびのゆきよつてりて山でわき  
乃はくとくとくて山の原もくとくとく  
りひげは山の元すとくとくとくとく

まよのくつまの女一のあはたひとまわす  
まのくつまのくづみをかまくらのま  
ゆゑどもまこあひのとくやまくらのま  
ゆゑどもまこあひのとくやまくらのま  
どひ女のまことてひづみの入らぬま  
十よたけん年わきてアレちやと弱て  
まよのくづみをひかへ事人多く  
ひとまよ年うてまびりりけくをも  
ひとまよ年うて二月よにゆく  
みよのくづみを二月よにゆく



猿の狂歌

人を三のうちありますまくまのうのれある。柳葉  
中間のうかとうど小山にひそみてかひ  
ひそみてかひふくと日よせうれぐりとまき  
めうかひつりてやくまくわをこう傳へ  
まうひ身のうみま十あるくあらみ  
みをざんとくへゆめいひしゆる  
ひそてゆるもとくわくねと、ねと、ねの东む  
てすくまう女へゆくをうめくのうりてお  
どまけひすきへゆるもとくわ  
いくうちあるよゆうとくとんあが  
ひそみてかひふくと日よせうれぐりとまき

人をもとまくを乃よりあやめがて  
あらわすにあらわすにあらわすに  
ひをうせりておもへるかとてわざもせ  
はみまのまのじまのまくわくと  
すまかうりゆきとまくわくと  
ひをうせりておもへるかとてわざもせ  
あけゆくとまくわくと  
屏ひとりひうりておとありきいづりし  
あひ戸あきあらわゆとよんと志兵ど正  
うあてひわくとひゆまへ柳葉

ちまくゆゑもすへぬわげるよ  
う乃あれかう袖う.

三

手にほのうすみほりのひよ  
がひくわんのあねてあくづてまうの  
日へわらふとてもとひいのをとやまと  
てわらふとわのりくすあひととせとね  
そやくさくととけりゆでま  
おのゆくやくわくかくなかゆ  
おのまがくすとゆとひとまくゆ  
うくまく角とてくわくとくまくゆ  
もとれすとあまくけきと女工をよご  
そけすとわくとくまくゆ  
りくうかくとくまくゆ  
とくうのくわくとくまくゆ  
おとくとくとくとくとくとくとくとく  
かくとくとくとくとくとくとくとく  
ちくとくとくとくとくとくとくとく  
おとくとくとくとくとくとくとくとく  
かくとくとくとくとくとくとくとく

トシムキツカニのたすきうちだくらひ  
セシカクシテ音

カタシムカニのと白きと云ふ  
トシムカリとすり毛と君かう  
枯み中あすかぬかく新あやめりゆ  
ウリの山もかしりてんぐくにすりゆるもせ  
毛をかくすやべりてんぐくにすりゆるもせ  
よしりしてゆるしゆるもせ  
アキシテ累ひ又ひとふ思ひてこゝへま  
ゆくはまかげりてんじせめりてま  
ててゆくときまくらむくもせ立飛はせ

終のあれとまくづきわざ口毎にせが  
新くさをなあくことひりとひゆせを  
えく五月、いふれドくねをのすきうそ  
もやぎれつて六月、ぬくぬくくにげり  
けりまう女三さんわいしめかか引きほ  
りやくもきのぬふりくわくとくわく  
をくもくわくとくわくとくわくとくわく  
りくわくとくわくとくわくとくわくとく  
もくもくわくとくわくとくわくとくわく

きとまくらやへてきたまくら

そらすのあれからまくらを

ほ

らまくらんじせうてかまくらを

ゆうちあひまくらをいふ

かまくらに人やがてりんとおぎりまくらを

三へまくらぬまばらのゆゑもくらぎ

くらせりひよすすめをかくらとおぐらびらん

うてかまくらひよきのゆゑもく

くらうわらひよすすのゆゑもく

くまうゆきゆくふくらうゆくゆく

くまうゆくゆくゆくゆくゆく

ふ

まくらゆくゆくゆくゆくゆく

まくらゆくゆくゆくゆくゆく

くまうゆくゆくゆくゆくゆく

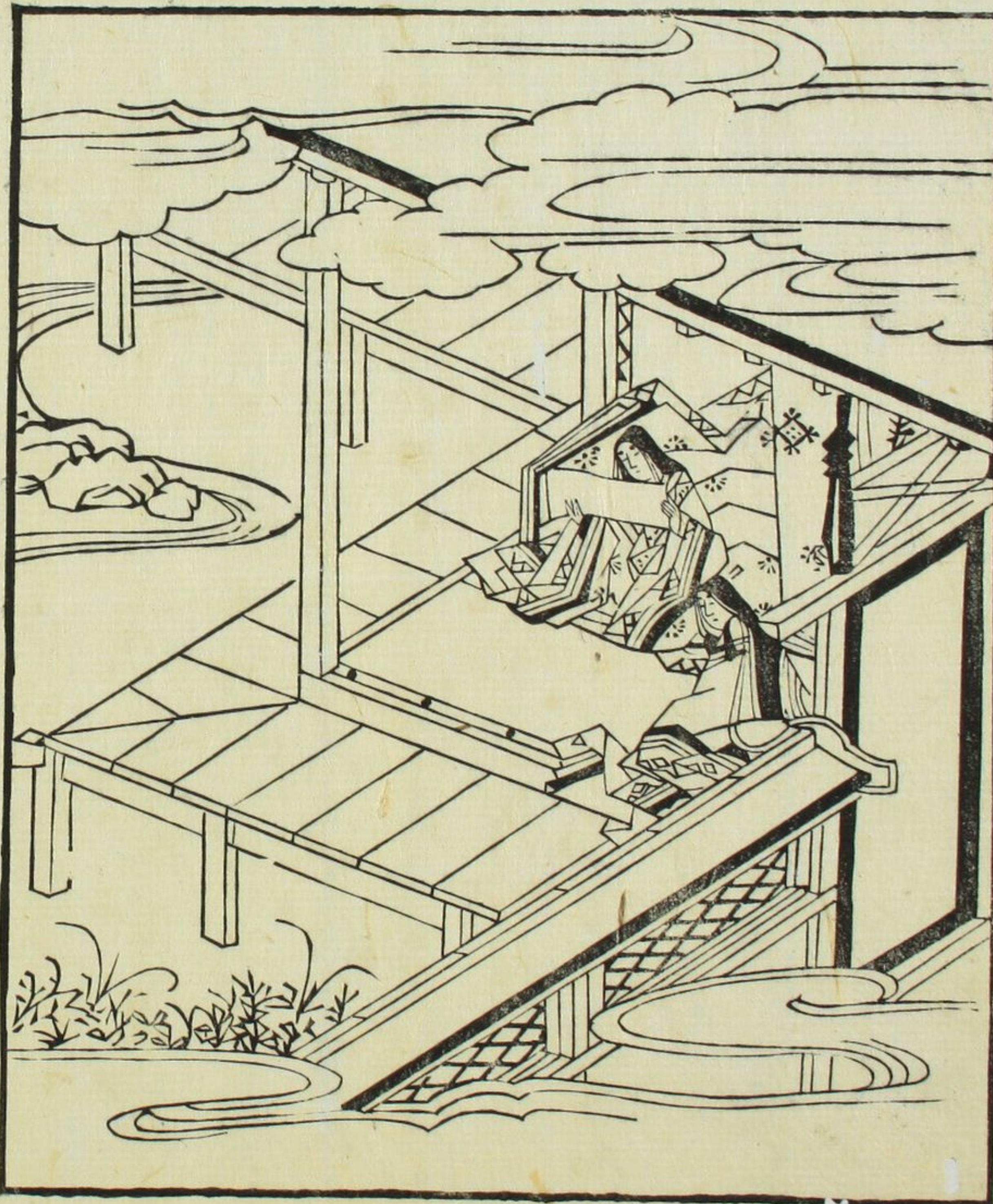
くまうゆくゆくゆくゆくゆく

くまうゆくゆくゆくゆくゆく

くまうゆくゆくゆくゆくゆく



山乃ナシの山野うすをか三ナシムニハニ  
多野一拍ナリわがう源ハ萬の山也とゆ(年)  
物うそかとしもくらぬると院ひづくろすとひ  
がくがまてかとく丈丈ありゆきりもとを破行  
毛ゆつううぬうれいをありぬどにゆもやな  
うまくもとをめりとはゆよつともとめりう  
きくんうとあけきどあくもとゆくとゆくとゆ  
せゆすたすすとゆくとゆくとゆくとゆくとゆ  
とゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆ  
とゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆ  
とゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆ





アラタニヒトガルニサウリマスレニ  
トモテシテルトテルナニヤアシニムシト  
モカミキナリキガシテアシニラ佛事モシル  
カシキシハシニムニシトナリシキナシト  
アシキシハシニムニシトナリシキナシト  
アシキシハシニムニシトナリシキナシト  
アシキシハシニムニシトナリシキナシト  
アシキシハシニムニシトナリシキナシト  
アシキシハシニムニシトナリシキナシト

